

『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑤

警察官僚の天下りを多く受け入れ 「組合憎し」で鉄の規律を課してきた葛西JR東海

警察官僚の天下りを多く受け入れており、支社や子会社レベルでも県警の警視クラスを総務部に雇用。…（略）…葛西氏の（国家公安）委員在任中の10年9月2日の国家公安委員会の議事録からは、彼のゴリゴリの政治的立場が窺える。警察庁の警備局長が**在特会**を年頭に、極端な排外主義をとる右翼団体に警察として対策を取っていると説明したところ、葛西氏はこう口を挟んだのである。（…（略）…このグループについては『極右』と呼ぶべきものではないと思う）

葛西氏の右寄りの考え方ゆえに、安倍首相とも気が合うのだろう。…（略）…
官邸との密接な関係は、安倍首相とだけにあるのではない。杉田和博官房副長官、谷内正太郎国家安全保障局長は、それぞれ警察庁や外務省を退官後に、JR東海の顧問となり、品川本社に個室をあてがわれていた時期がある。そして安倍首相のスピーチライターである谷口智彦内閣参与も、JR東海やウェッジの顧問だった。
葛西氏がこの人脈をフル活用して推し進めるのが、高速鉄道の米国輸出だ。JR東海取締役会に外国人で唯一参画するトーケル・パターソン氏は、ブッシュ政権の大統領特別補佐官。新幹線売り込みのロビー活動を行う現地会社の社長でもある。米軍再編計画交渉の当事者で元国防次官補のリチャード・ローレス氏や、在沖縄総領事や国務省日本部長などを務めたケビン・メア氏も別の現地会社の社長や米国での事業にアドバイスする立場となり、彼ら”安保マフィア”が準備を着々と進めている。

「組合憎し」で現業職員に鉄の規律を課してきた葛西JR東海。その支配の様は、活動家に操られる組合の合わせ鏡のように映る。…（略）…
創業者でもない”社父”が君臨する異形の公益企業が、今なお日本の大動脈を押しさえているのである。